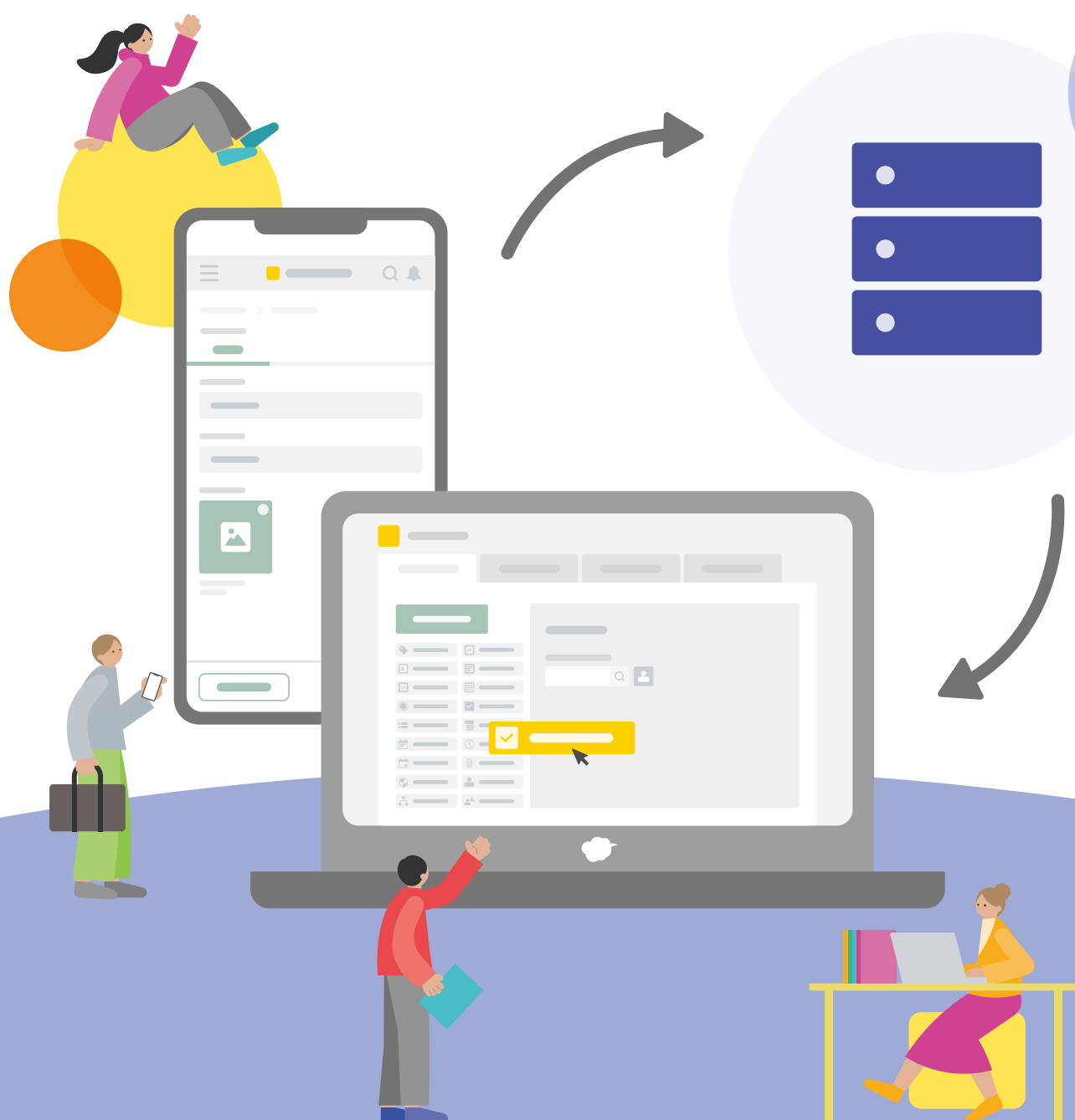


ユースケース/事例を元に解説!

ERP × kintone で 基幹データの柔軟な入力・活用を実現



ERP単独での「AI-ready」化は、なぜ難しいのか？

AIの活用が企業の競争力に直結する昨今、
AIの精度を支える「一元化されたデータ」の整備は急務です。
ビジネスの中核を担うERPには
「AI-ready」なデータ基盤への進化が求められていますが、
過去の経緯や制約により、ERP単独で対応するのは非常に難易度が高いのが現実です。

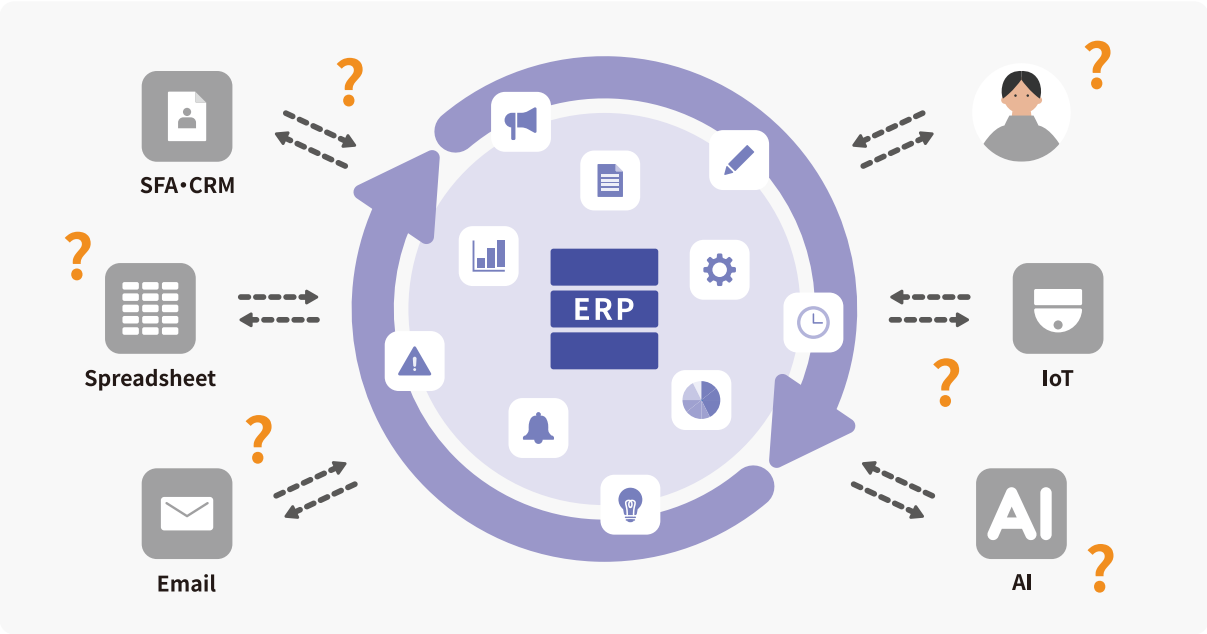
ERPの変化



これまでのERPはアドオンによる肥大化・複雑化でアップデートが滞ったり、
業務運用が上手く回せなかったことから
現在ではERPの標準機能をベースにして導入を進める「Fit to Standard」が推奨されています。

	これまでのERP	これからのERP
考え方の基本	自社の既存業務がベース	ERPの標準機能(ベストプラクティス)がベース
導入方法	Fit&Gap	Fit to Standard
適合しない業務要件の実現方法	追加開発(アドオン)で埋める	システムに寄せるために業務フローを変更する
導入コスト・期間	開発が多くなるため、高コスト・長期化しやすい	標準機能を使うため、低コスト・短期間で済む
将来の拡張性	独自のカスタマイズが邪魔になり、アップデートが難しい	ERPを標準機能のまま利用しているため、カスタマイズに阻まれることなく最新機能を即導入できる
導入基盤	オンプレミス	クラウド

「これからのERP」で生じる課題

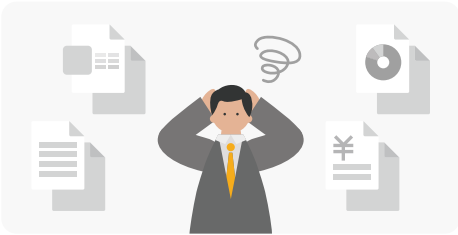


ERPの標準機能に業務を合わせることで、ERP自体のシステム運用は行いやすくなります。
その一方で、次のような課題が発生する場合があります。

課題 1

業務をシステムに合わせたため、使いづらい

従来アドオンで対応してきた日本特有の商習慣や自社固有の業務運用を、システムに合わせることで、かえって運用が煩雑化する…



課題 2

データガバナンスが取れない

業務運用を回すため、現場担当者が表計算ソフトやメールなどをERPの周辺で多用した結果、データガバナンスやセキュリティの担保が難しくなる…



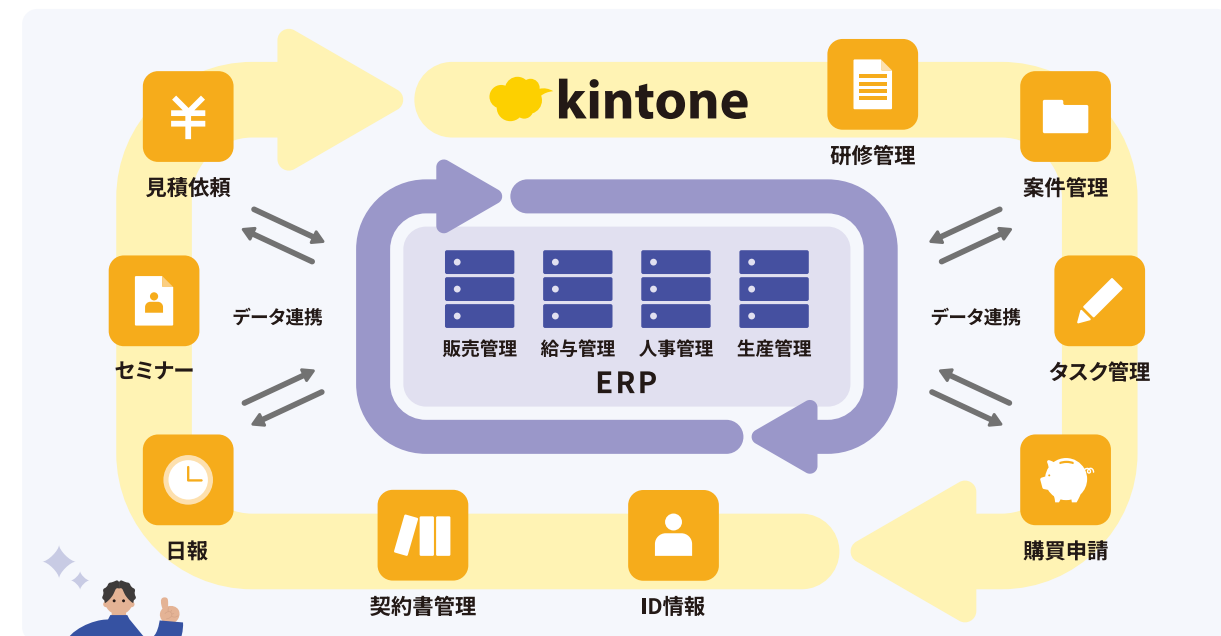
課題 3

データがサイロ化し、AI活用が進まない

ERPに入力できない未確定データ/非構造化データなどを様々なシステムで管理することになり、AIによるデータ活用が進まない…



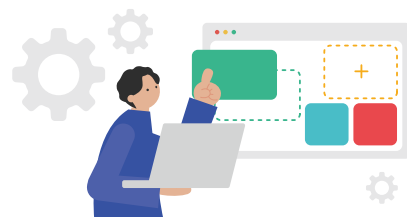
ERP周辺の、様々な業務にkintone



ERPの周辺業務にkintoneを利用することで、業務運用に合わせつつ、データガバナンスとセキュリティを担保し、データのAI活用が可能になります。

業務運用に合わせて
システムを柔軟に設計できる！

詳細はP.5へ ▶



データガバナンスを担保できる！

詳細はP.6へ ▶



データを束ねてAI活用できる！

詳細はP.7へ ▶



kintoneでできること ERPと一緒に使うことで、業務をより便利に！

誰でも簡単に作れる

● マウス操作で作る

ドラッグ&ドロップで必要な項目を選んで並べれば、イメージどおりのアプリを作成できます。アプリを使いながら改善していくことも可能です。



● AIで作る

「アプリ作成AI」で、チャットでAIと対話をしながらアプリを作成できます。つくりたいアプリを伝えれば、AIが適切なアプリ名やフィールドを提案してくれます。はじめてアプリを作成する方も安心して取り組みます。



kintoneでできること

ERPと一緒に使うことで、業務をより便利に！

情報共有をスムーズに

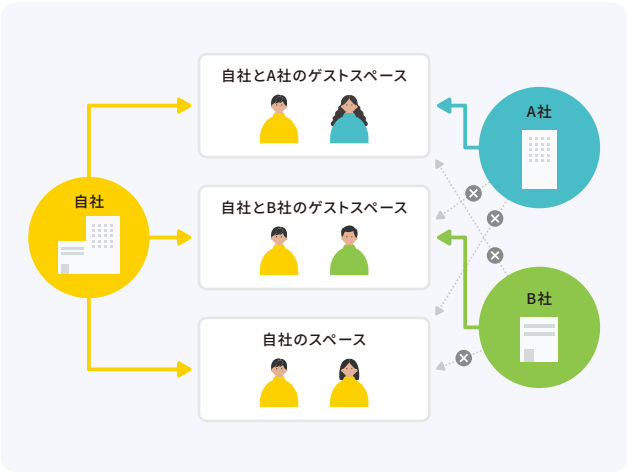
データ・コミュニケーション・プロセス

データとプロセス管理にコミュニケーションを紐付けられるのがkintoneの特長です。
チーム内で共有するデータに対して、ひとつの画面に情報がまとまります。
また、プロセス管理機能によって、ワークフローとしても活用でき、ERPに入力する前の未確定データを管理することも可能です。



ゲストスペース

kintoneのゲストスペースを活用すれば、取引先やパートナー企業など社外メンバーとも安全に情報を共有できます。
メールやファイル送付に頼らず、最新データを一元管理でき、ERPに連携する前の調整や確認作業もスムーズに行えます。



モバイル対応

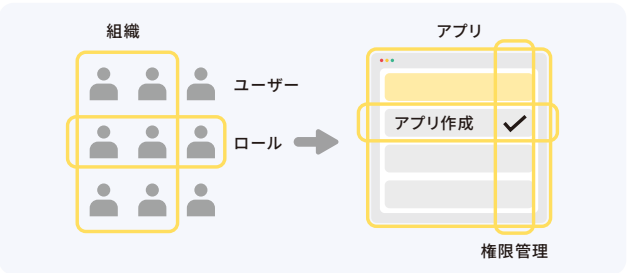
kintoneはモバイル対応しており、スマートフォンやタブレットからでも業務データの確認・更新が可能です。
外出先やリモート環境でもデータ入力や承認作業が行えるため、業務の停滞を防ぎ、スピーディな意思決定が可能になります。



安心して使える基盤

ガバナンス

kintoneには情報の整合性やセキュリティを保ち、アプリの運用ルールを統一していくための管理機能があります。そのため、利用者に安心して使っていただけます。



セキュリティ

kintoneは、堅牢な基盤を持つサイボウズのクラウドサービス上で運用されており、第三者機関 (ISMS※1、ISMAP※2) から認証を取得しています。



※1
ISO/IEC 27001 (情報セキュリティ)
認証登録範囲:
・自社開発クラウドサービスの運用基盤の設計、構築、保守
・社内情報システム基盤の設計、構築及び運用保守
・クラウドサービス、オンプレミス製品及び社内システムの開発
認証登録番号: IS 577142

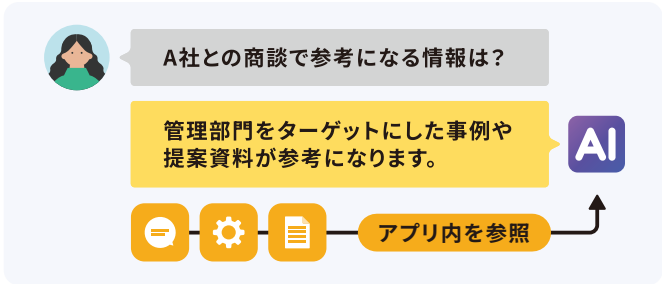
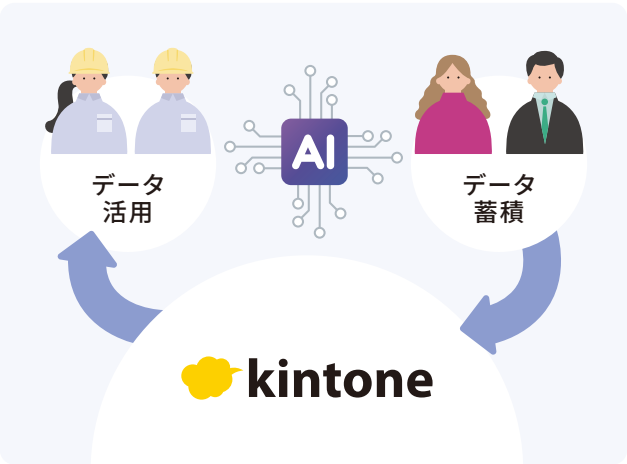
ISO/IEC 27017 (クラウドサービスセキュリティ)
認証登録範囲: cybozu.com、Garoon、kintone、サイボウズ Office、メールワイズの提供に係るクラウドサービスプロバイダとしてのシステム運用・保守に係る ISMSクラウドセキュリティマネジメントシステム
認証登録番号: CLOUD 715091

※2
登録対象: クラウドサービス運用基盤 cybozu.com、並びに cybozu.com 上で提供する Garoon 及び kintone
登録番号: C21-0016-2

AIによるデータ活用

kintone AI

AIがkintoneに蓄積されているデータを効率的に検索します。業務に必要な情報をすばやく見つけチーム全体でデータをより効果的に活用できます。

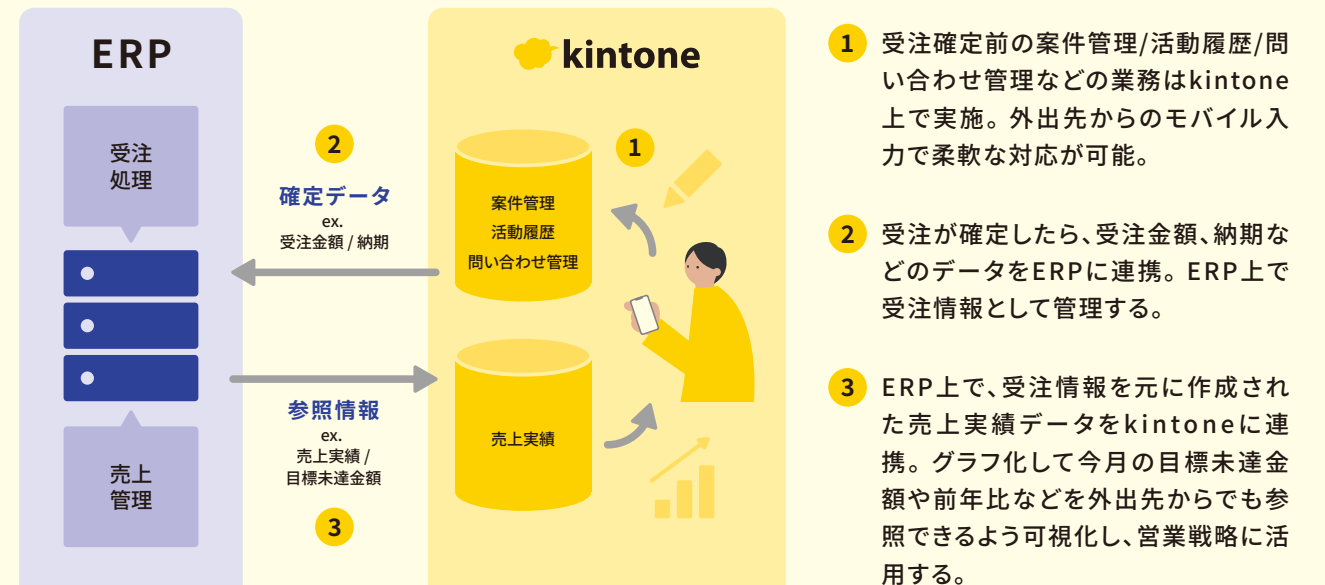


ERP×kintone ユースケース

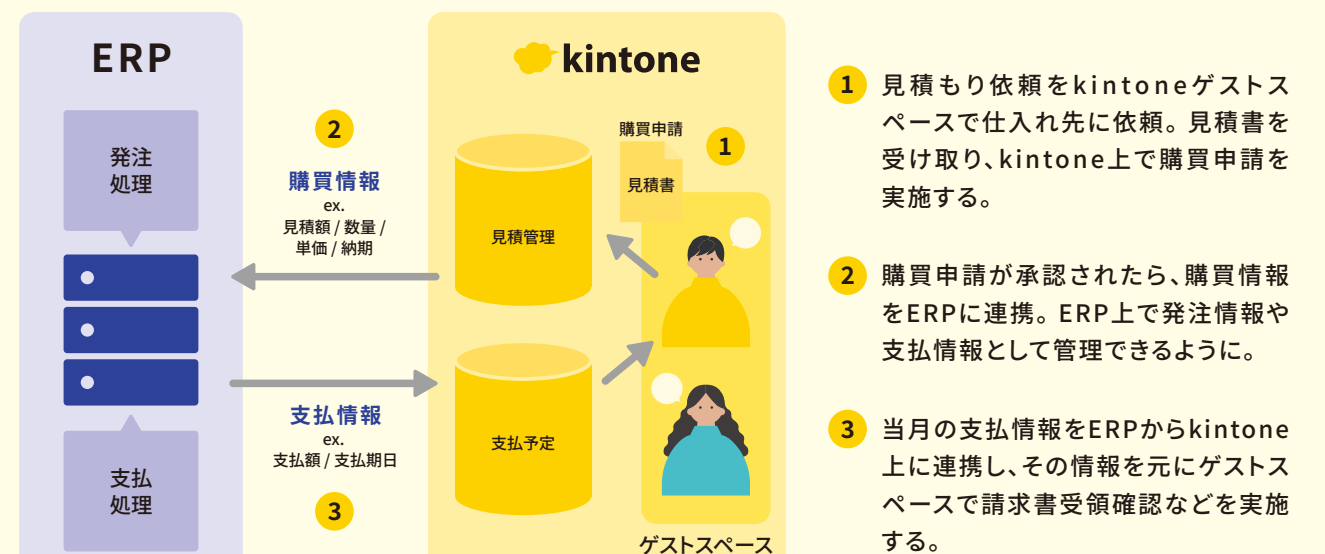
ERP×kintoneを組み合わせることで
ERPに足りない機能を補えるユースケースをご紹介します。



1. 営業業務(ERP ⇄ kintone)



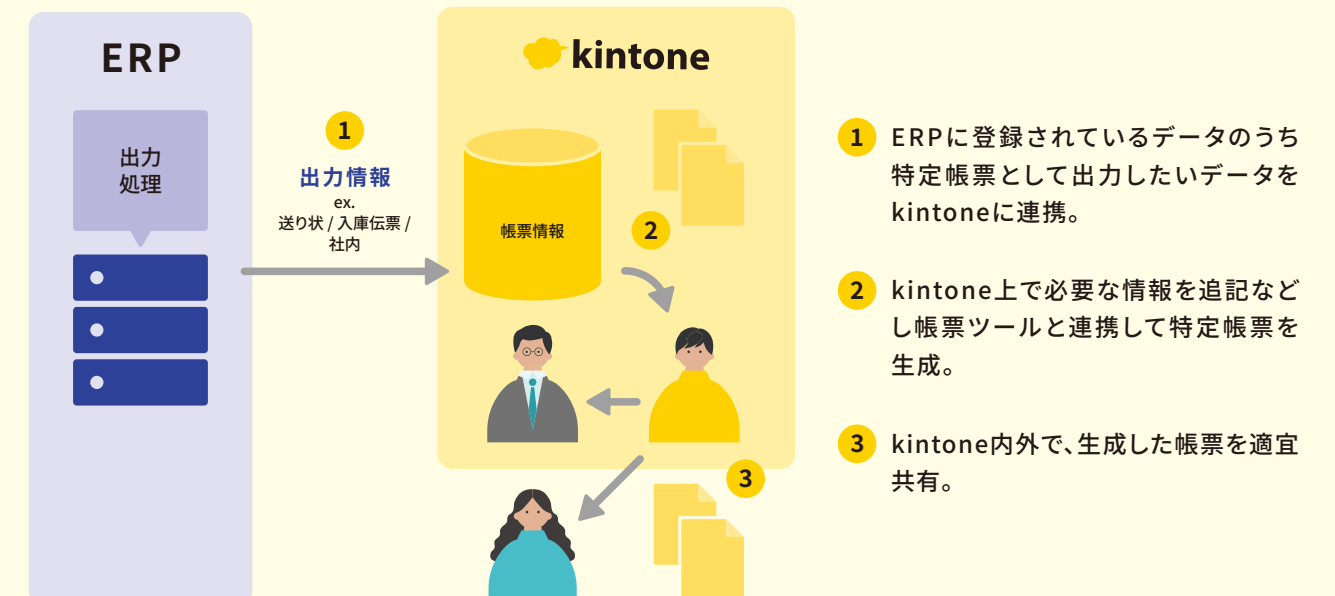
2. 購買業務(ERP ⇄ kintone)



3. マスタメンテナンス(kintone → ERP)



4. 帳票出力(ERP → kintone)



ユーザー事例 01

SAP S/4HANAへの移行期にkintoneを選択
アップグレードの影響を回避し、
社外とも連携する船積み指示業務を効率化

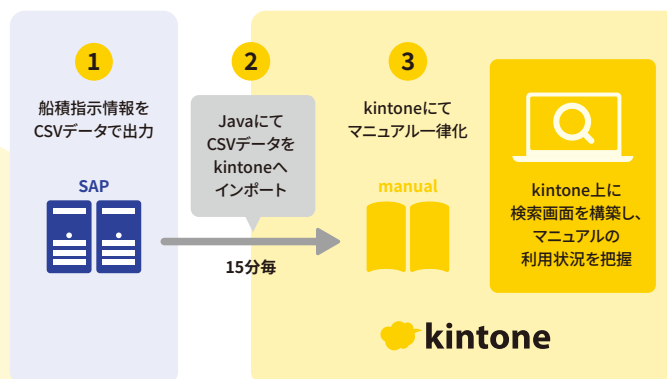


伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社

業種	鉄鋼総合商社
従業員数	10,816名(連結 2025年4月1日現在)
事業内容	国内外の鉄鋼関連事業投資、鉄鋼流通

ERPとの連携

利用中のERP SAP 連携手法 ファイル連携 利用用途 「船積み指示業務」の情報共有



- 1 SAP S/4HANAから、船積み指示に必要なデータをバッチ処理で定期的にCSVファイルとして自動出力。
- 2 CSVファイルをkintoneに自動で読み込み、kintoneの「船積み指示管理アプリ」にデータをインポートする。
- 3 社内外の担当者がkintoneアプリにアクセスし、ほぼリアルタイムで最新の船積み情報を確認。kintone上で業務のステータス管理や関係者間のコミュニケーションを行う。

効率化されたポイント

Point 1 社内外を巻き込んだリアルタイムな情報共有

電話やメールで分断されていた情報をkintoneに集約。SAPアカウントを持たない社外関係者とも常に最新の船積み情報を共有できる体制を構築し、伝達ミスや確認漏れのリスクを削減した。

Point 2 SAPアップグレードのリスクとコストを回避

SAPに手を加えるアドオン開発を避け、CSV連携による疎結合な構成を選択。開発コストを数分の一に抑えつつ、SAP S/4HANAのアップグレードの影響を受けないシステムを短期間で実現した。

担当SIer



コムチュアではサイボウズ製品の導入から開発・運用まで一貫してサポートさせていただきます。SAP連携等どんなご相談でもお待ちしております。
<https://www.comture.com/cloud/kintone.html>

“

ERPとつながる、kintoneの拡張機能



豊富なAPIが利用できる

kintoneは、豊富なAPIが公開されており、多くのシステムと柔軟に連携することが可能です。APIを直接利用する個別開発だけではなく、サイボウズのオフィシャルパートナーが提供している、iPaaS/EAI/ETLといった連携サービスやRPAを活用することで、開発工数を抑えつつ、迅速かつ安定したERPとのデータ連携を実現することもできます。

主な連携方法

iPaaS/EAI/ETLツールを利用する

プログラミング不要で、データ連携を実現するためのiPaaS/EAI/ETLツールを用いることで、シームレスかつ安定した連携が可能になります。複雑なデータ加工や、複数のシステムをまたぐ連携、エラー処理やログ管理が可能な製品もあります。

主なサービス例



RPAを利用する

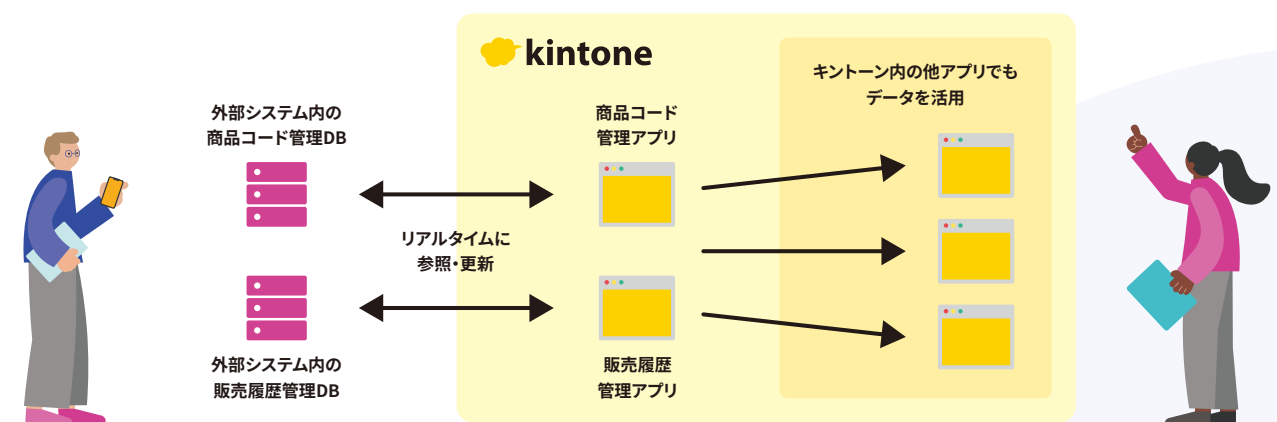
人がPCで行う操作(クリック、コピー&ペーストなど)を自動化できるRPAを利用することで、ERP側のAPIが公開されていないシステムとのデータ連携が可能です。

主なサービス例



ワイドコース限定! 「外部システムのアプリ化」機能

外部システムで管理されているデータをkintoneのアプリのレコード一覧画面で確認したり、レコード編集画面で編集したりすることができるようになります。



料金

ご利用規模や目的に応じて、3つのコースをご用意。初期費用無料・1ヶ月から契約可能

	ライトコース まずは最小限の機能で シンプルな業務改善を試したい	おすすめ スタンダードコース 連携・拡張機能で業務を しっかり効率化したい	ワイドコース 大規模で 円満に利用したい
基本価格	月額 1,000 円 /1ユーザー	月額 1,800 円 /1ユーザー	月額 3,000 円 /1ユーザー
最小契約ユーザー	10ユーザー	10ユーザー	1,000ユーザー
外部サービス連携、 プラグインなどの拡張機能	—	○	○
大規模利用向け機能	—	—	○
ディスク容量	5GB × ユーザー数(ディスク増設:月額1,000円/10GB)		

さらにkintoneを詳しく知りたい方向け

エンタープライズ企業向け kintoneガイドセミナー

オンライン開催

エンタープライズ企業向け

kintoneガイドセミナー

ガバナンスとデータ活用を両立する
「AI-Ready」な業務基盤



これからkintoneの導入や活用を進めたいとお考えの方を対象に、エンタープライズ企業での活用ポイントをご紹介しますセミナーです。



https://cybozu.jp/ep_guide_seminar

キントーン導入相談窓口



あなたに合った、キントーンの利用方法・導入の進め方について、オンライン会議、または電話やメールでご相談を承ります。



<https://pg.cybozu.co.jp/kintone-contact-us.html>



サービスに関するお問い合わせは、kintone Webサイトへ

<https://kintone.cybozu.co.jp/>

※サイボウズ、cybozu、kintone およびサイボウズのロゴマークはサイボウズ株式会社の登録商標または商標です。※記載された商品名、各製品名は各社の登録商標または商標です。また、当社製品には他社の著作権が含まれていることがあります。
<https://cybozu.co.jp/logotypes/trademark/>
©Cybozu, Inc

KERP-002-2605 本カタログの記載事項は変更になる場合がございます。

お問い合わせ先

2026年5月版